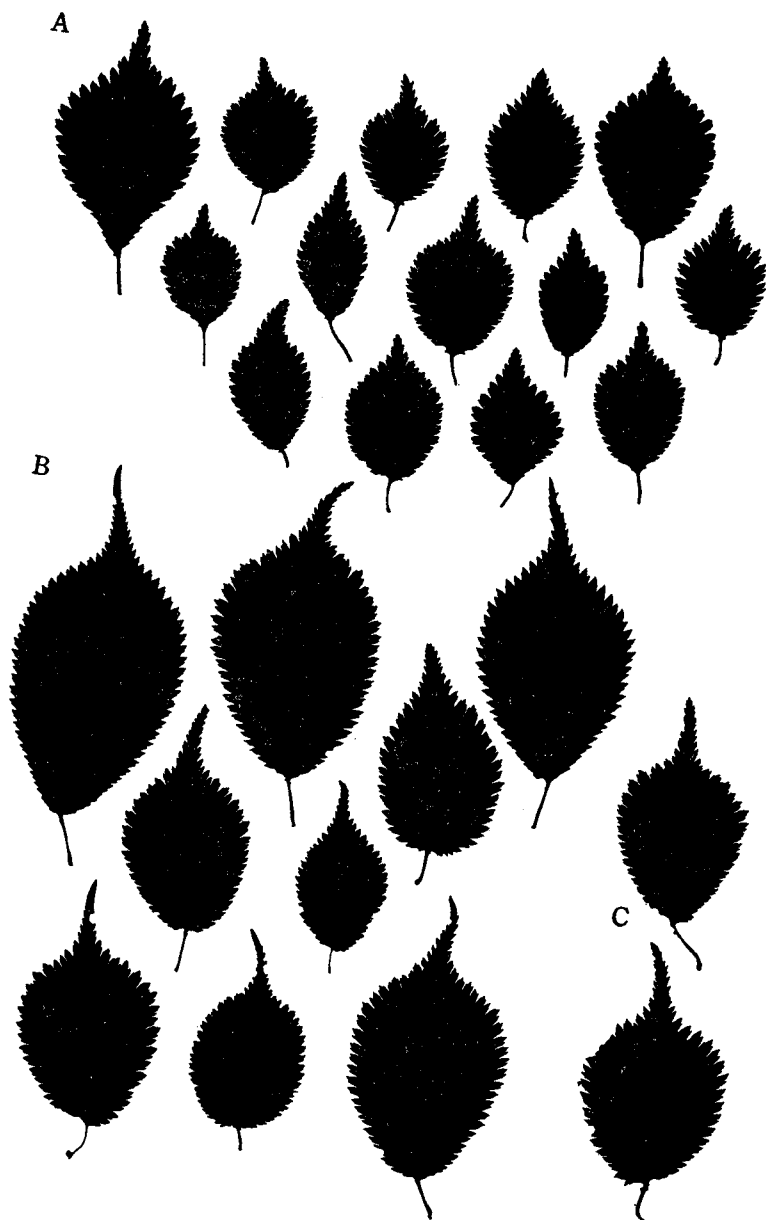

守屋忠之* マメザクラの変種シコクマメザクラについてT. MORIYA : A new variety of *Prunus incisa*

本邦に産するサクラ属樹木の地理的分布に関して研究を進めたところ、四国剣山、東赤石山から報告のあるキンキマメザクラ、石鎚山に知られるチシマザクラについて今一度研究しなおす必要を感じ、葉のかたち、葉縁鋸歯、がく筒の形を重点に検討した結果、上記所産のサクラはマメザクラの特徴をそなえたサクラであるとの結論に達し、キンキマメザクラと考えるよりは、むしろマメザクラが変化した四国型であると解した方が妥当であろうと考えるにいたった。ここに新和名を付し分類学的知見をまじえて報告したい。この研

※埼玉県秩父市近戸町 4—23

TNS : 国立科学博物館所蔵標本

TOFO : 東京大学農学部森林植物学教室所蔵標本

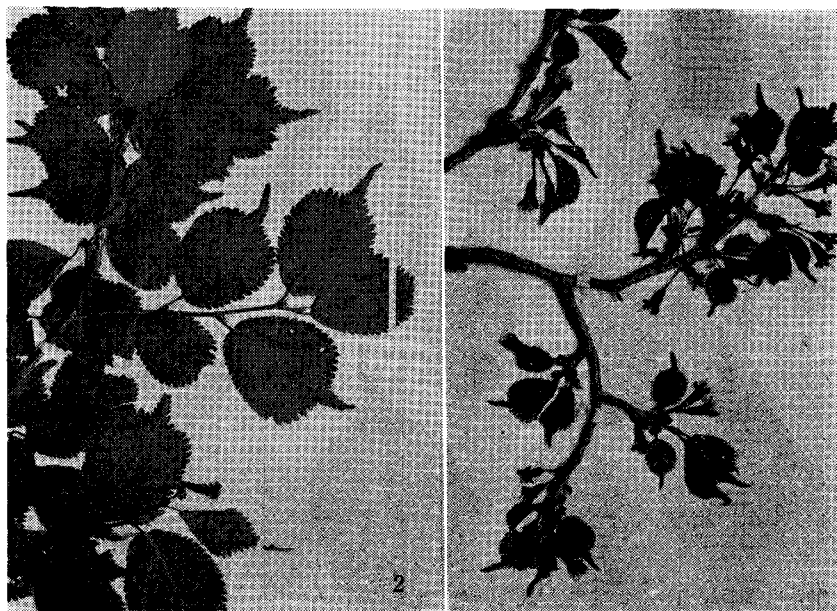


第1図 A : *P. incisa*. B : *P. nipponica* C : *P. incisa* var. *shikokuensis* の葉形

究を行うにあたりご指導賜った東京大学教授倉田悟先生，所蔵標本の閲覧を許された国立科学博物館奥山春季先生にお礼申し上げる。

ここでは特に石鎚山産のチシマザクラといわれるものと本州中部産チシマザクラの葉の形質について吟味した。この研究に供した比較資料は石鎚山天狗岩（神保太郎 1961年 TNS），石鎚山二の鎖場（太田喬二 1960年 TNS），石鎚山（岡国夫 1966年 TOFO），タカネザクラ—秩父白岩山（守屋忠之 1967年，1968年），チシマザクラ—上高地—蝶ヶ岳（守屋忠之 1967年），マメザクラ—富士山北麓（守屋忠之 1968年）などの花期および成葉時の標本である。石鎚山産の葉（第1図Cおよび第2図—2）は，広倒卵形，長さ4.5～5.7cm 巾2.7～3.7cm，尾状鋭尖頭，葉面とくに中肋および下面脈上に伏臥する毛をしく，葉縁は深く切れた重鋸歯，鋸歯の先は腺とはならず尖頭もしくは芒状となる。葉柄は1～2cm 伏臥する毛を生じ上部に2個の蜜腺を生ずる。蝶ヶ岳産チシマザクラ（第1図B）は，長だ円状倒卵形，長さ(3)5～7cm 巾1.8～3.8cm 葉の上下面脈上に開出する毛を密生する。葉縁は切れこみの深い重鋸歯，鋸歯の先は目立つ腺におわる。葉柄は1～1.2cm 開出毛を密生し上部に蜜腺を生ずる。このような特徴をもつ両産地のチシマザクラは，次に示す三点でことなる。

第2図 *Prunus incisa* THUNB. var. *shikokuensis*



	石鎚山産“チシマザクラ”	蝶ヶ岳産チシマザクラ
葉のかたち	広倒卵形	長だ円状倒卵形

葉の鋸齒	深く切れた重鋸齒 鋸齒の先は腺とならない	深く切れた重鋸齒 鋸齒の先は腺となる
毛の性状	伏臥する	開出する

上にしるした特徴から、石鎚山産“チシマザクラ”はしばしばタカネザクラと同定の際混乱のあったマメザクラの特徴に符合するものと思われる。因みに第1図Aに富士山北麓に産するマメザクラの葉のいろいろの形をかかげた。図版にしめた石鎚山産“チシマザクラ”(第1図C)、本州中部蝶ヶ岳産チシマザクラ(第1図B)、マメザクラ三者の葉をくらべると多くの葉のなかには、葉のかたち、鋸齒のかたち、切れかた等区別しがたいほどよく似た葉を見出すことができる。

このような葉の形質は個体間の変異が著しく、石鎚山の場合亜高山帯植物相にあたる環境下に生育するためマメザクラの基本型よりいずれた葉の特徴、すなわちチシマザクラに著しく類似した型となりチシマザクラに同定されたものと思われる。このような著しい変異をしめすマメザクラとタカネザクラ系兩種を適確に識別しうるのは鋸齒の先に発達する腺の有無にある。私はこの特徴をうらづけるためにマメザクラについては個体数の多い富士山北麓において幼葉～成葉時の標本45例、タカネザクラにあつては幼葉～成葉時、白岩山付近のもの約20例、チシマザクラでは成葉時上高地～蝶ヶ岳間にて50例を観察した結果、マメザクラは鋸齒の先が腺に発達する個体は皆無であり、タカネザクラは全個体目立つ腺に発達することを確かめた。したがって石鎚山産“チシマザクラ”は葉の形質においてマメザクラの特徴をそなえたサクラであると考えられる。

花にあっては種類を識別する上で重視される特徴としてがく筒の形に注目した。タカネザクラ系では基部の細まる鐘状で比較的安定した形をしめす。これに対してマメザクラは筒状あるいは基部のふくらむつば形を呈する。小花柄はタカネザクラでは花時2～3.5cmに伸長し花軸の発達した散房花序をつける。マメザクラは短かく花時0.7～1.6cmと花軸の発達しない散形花序である。石鎚山“チシマザクラ”は、花時小花柄はタカネザクラ系ほど伸長することなく1.8～2.2cmと短かく、がく筒は筒状で太く短かく花軸の発達しない散形花序で、小花柄には葉と同じく伏臥する毛をしく。以上葉および花の特徴を総合して石鎚山に産する“チシマザクラ”はマメザクラ系のものであるとの結論に到達したのでシコクマメザクラと命名する。また東赤石山にもこのシコクマメザクラがある。

つぎにキンキマメザクラとシコクマメザクラとの相異なる性状についてのべる。キンキマメザクラの性状を小泉源一先生の前記に照すと葉は例卵形あるいはやや菱状だ円形で長さ3～7cm 巾1.5～3cmまたがく筒は基部円形の筒状で長さ6mmである。しかしシコクマメザクラの基準標本では、葉は広い倒卵形で長さ4.5～5.7cm 巾3.2～3.2cm、がく筒は長さ6～7mm。両者のがく筒を比較するときキンキマメザクラは細い筒状で、繊細な感じをうけるのに対してシコクマメザクラのそれは太く短かい筒状である。またマメザクラの普通形にくらべると図版第2図に示したように、葉が大形で巾広い倒卵形を呈する点で多少ずれている。したがってシコクマメザクラはキンキマメザクラおよびマメザクラに比して葉のかたち、がく筒の形態をことにし、その形質はマメ (37頁につづく)

(45頁よりつづく) ザクラの形質に近く、マメザクラの普通形より少しずれた型であると思われる。

***Prunus incisa* THUNB. var. *shikokuensis* MORIYA var. nov.**

Folia adulta late obovata 4.5—5.7 cm longa, 3.2—3.7 cm lata utrinque ad costas medias adpresse pilosa. Calycis tubo cylindrato 6—7 mm longo.

Hab. Shikoku : Mt. Ishizuchi, Prov. Iyo (K. OTA, Jun. 1. 1960-typo in TNS) ;
ibid. (T. JINBO, Aug. 14. 1960)

P. nipponica var. *kurilensis* has been known to occur on Mt. Ishizuchi. Based on precise observation however, it is clarified that it does not belong to *P. nipponica*, but to *P. incisa*. Especially the non-glandular serration and the short calyx-tube indicate characteristics essential to *P. incisa*.